

松見寺文書

松見寺文書

萃嚴三聖之尊影筆妙古意備矣而經年又不圖其幾許將
紙力盡画面破裂因第廿 世住職蘆津実全來告予感共篤志
不忍觀之維持明治四年辛未秋與無檀徒田端恒信儀而
修裝之裝成乞於函蓋記巖薺道人記忽成蓋旧裝裏有
亮英記左寫之以加蛇足云爾

明治十一年初秋 檀越 田 端 春 清

記文曰 百 濟 川 成 筆

當寺往古ハ一向宗ニテ候天台ニ改宗候節初テ安置仕候本尊
釈迦仏是也右本尊八十年ニ在家ニ有候処爲令知當寺之昔ヲ
兼相成表具仕今當寺ノ什物ニ致置者也

宝曆十一年辛巳歲七月十五日 松見寺住職

亮 英 改 之

寺用雜筆 松見寺古話人

の綴込の中から

益御清栄奉慶賀候 然ハ當寺融通講も長く休全不相濟次第

に御座候右ニ付来ル廿九日

則旧曆
六月廿八日

於當寺全合相當其節何頃御相談申

度儀有之候間同日午前拾時迄無相違御出席可相成下候

一、翌三十日

則旧曆
六月廿九日

當寺住職進退之事件并公事御相談申度議

有之候間古話人衆の内午前十時迄當寺へ御出席可被下候

因テ態々使ヲ以申上候 以上

明治

十一年七月廿四日

融通講のありしことは眞宗でありしなごりか
天台としてもかゝる講もあるものか(芝口)

覺

一、日高郡松見寺事天鷲寺方ニ而相違無之候間旦那申願候
ハゞ向後天曜寺より支配可有之事

一、天鷲寺旦那下津浦有之分ハ陽照院より支配可有之事

圓覺院

貞享二年五月廿三日
(一六八五年)

雲蓋院權僧正

表封

チツレ奉書

紀伊國吉原浦

松見寺

其寺爾來可稱十四等七級

直末寺事

維持明治十四年十月
(一八八一年)
宗務廳

天台

宗務廳

紀伊國日高郡吉原村

松見寺

紀伊國日高郡吉原浦

松見寺

圓宗
維綱

今般依現住蘆津実全

懇願當山直末之旨

比叡山

明治六年八月廿八日
(一八七三年)
宗務廳

總本山
宗務廳

奉書半分型

表封(ミノ紙)

總本山御印章 松見寺

(一六九八年)
元禄十一年戊寅三月寺社奉行へ

宗海僧正御書上之寫

一、山号は只今迄無之候処當春奉願御赦免ニ付海龍山と号候
院号無之

一、山林無之

一、寺地高尅斗参升八合御年貢地

一、殺生禁断御制札無之

一、御年礼相勤不成

一、棟札無之

一、當住ハ長保寺地藏院弟子遵澄無官無位

松見寺山号ハ元禄十一年春赦免海龍山と称す

歴
代
曆

初代
一、乗圓

此人代貞享二年(一六八五年)改宗法印二昇進
寛永十三年(一六三六年)より承応二年(一六五三年)迄十八年間住職

○ 乗圓は元眞宗なりしも切支丹宗に皈依し寺社奉行より天台宗の監督下におかれ改宗せられるものといふ

二代
一、正林

三代
一、眞識

四代
一、頼音

此三代は承応三年(一六五四年)より寛文二年(一六六二年)迄

九ヶ年間住職

五代
一、知運

六代
一、遵澄

七代
一、圓純

無官無位長保寺地藏院弟子

此三代は寛文二年(一六六三年)より享保五年(一七二〇年)まで

五十八年間之間住職

一、八代
亮覺
享保六年（一七二一年）より明和元年（一七六四年）迄四十四ヶ年之間
粉（粉川？）芝明院より兼任

一、九代
覺周
明和二年（一七六五年）より寛政二年（一七九〇年）迄廿六ヶ年之間住職

右寛政四子（一七九二年）五月寺社御調之節覺圓法印より和歌御印代
まで書上有之別帳有之事

一、十代
智周
文化六己巳七月九日号覺心院法印權大僧都
之来原谷村佐四郎息

一、十一代
辨明
江戸法印と俗申

一、十二代
昌空
文化七（一八一〇年）庚午八月廿八日号定嚴院法印大僧都
号 雲蓋院ニ而遷化也

一、十三代
本成
天保五（一八三四年）午三月廿三日於伯州大山寂号元来越前
産医師の子也号安意院大僧都此人聲明の
達人也

一、十四代目

吉原浦高垣万藏男

本壽

天保三(一八三二年)辰九月廿五日号法印權大僧都

一、十五代

若府岩橋藤右衛門男号中境坊

昌純

山門極樂坊弟子天保四(一八三三年)巳年入院

一、十七代

湯浅駅鍛冶屋町鍛冶師作兵衛男

教光

昌純弟子天保十(一八三九年)亥年来ル十才

(一八〇四年)文久元年松見寺頼母子講の集銀并法衣等を持出し出奔

和歌山鷺森櫻屋ひさ内遊女さとと兼て馴染にて見請松見

寺より公事方へ訴へ御取調手先甚之助寅藏とあり右一

件書類田端喜三兵衛氏と松見寺一件として保存せ

り「松見寺記事」中にあり

この歴代住職は前掲の歴代と相違の点多し

第一古 乗圓

旧淨土宗 從文祿三年(一五九四年)甲午至寛永十二年(一六三五年)乙亥四十二年間當寺務

是歳更爲天台宗居十九年承応二年(一六五三年)癸巳七月二十九日薨九十一歳寂

二古 正林

三古 眞識

四古 頼音

從承応三年(一六五四年)甲午(一六二五年)寛文二年(一六六二年)壬寅三僧相傳而紹三寺職其年限

皈寂不詳

五古 知運

六古 正元

七古 遵澄

八古 圓純

九古 亮覺

以上五古從寛文三年(一六六三年)癸卯至享保五年(一七二〇年)庚子五十八年之間寺務

相承獨九杳亮覺永住營藥医門造院内四方土塀享保十五年_(一七三〇年)

庚戌九月十二日寂

十杳 亮英

住職自享保六年_(一七二一年)辛丑至明和元年_(一七六四年)甲申在職中新造本

尊造营庚申堂鐘楼堂其余廃頽皆修功績最大因爲

當寺中興

十一杳 亮

十二杳 覺周

十三杳 智周

智隆

義侃

周円

昌空_(一八一〇年)文化七年庚午八月廿八日寂

本壽_(一八三一年)天保三年壬辰九月廿二日寂

昌純_(一八六三年)文久三年癸亥十二月廿八日寂

昌雄

号教光坊昌純弟子萬延(一八六〇年)元年十月十一日入寺

末幾而退院

忍靜

自有田郡瀧村多喜寺轉住明治(一八六九年)二年己巳七月五日寂

忍鴨

号觀禪坊道成寺忍性弟子明治二年己巳九月十九日入寺

翌年五月退院

從智隆至昌純旧記論歿履歴古次不詳

何か不行状の事あり飯俗云付らる この後任には
蘆津実全晋山(芝)

享保十年書上帳寫

一、當堂 一字

四間四面

本尊 釈迦

文珠 普賢

右堂内ニ

地藏尊一躰

天台大師

伝教大師一躰

一、護摩堂 一字
貳間半四方

本尊

千手觀音 藥師尊
不動尊

右堂内ニ

觀音 但供并燈明料附

三十三躰

一躰弘法大師作

辨財天

一、釣鐘

但堂は出来不申只今假堂也

當寺は開基不相知 往古より一向宗ニ而日高三十六道場之内ニ而

御座候所寛永十二年(一六三五年)に天台ニ改宗仕

其節住持 江州坂本三明院
乗円と申候

末に罷成寺号松見寺と改め申し候貞享^(一六八四〜八八年)年中和歌天曜寺支

配に相定り候住持大阿闍梨權大僧都法印込に昇進仕筈ニ御座候

一、惣而縁起記録寄附状宝物寺領等之儀無御座候事

一、山林無之

一、殺生禁断制札無之

一、棟札無之

享保^(一七二五年)十乙巳年

松見寺 亮英

右は享保十年從 公儀御尋ニ付右之通書附

和歌本坊ニ而改末寺方一帳ニいたし社寺奉行所へ差出候寫

（一八二五年）
享保十乙巳十月寺社方より御調二付

書上帳之寫

一、本堂一字 本尊 釈迦文珠普賢

一、護摩堂一字 本尊 不動 十手 薬師

一、開基不相知 往古は日高三十六道場之内一向宗に而文祿三年より

（一六二五年）
寛永二年まで四拾貳年間乗円と申者住持仕寛永二年天台に

改宗江州坂本三明寺賢海末寺二罷成寺号松見寺と改ム三

明寺弟子念海より當院先住憲海僧正へ申来候は遠方の儀

に候間末寺同前に支配仕様にと頼来候付致支配拙僧方へも

右之通申越候故憲海同前に被支配候然処貞享申子年

（一六八四年）

三明院兼帶所天鷲寺と中ニ法論有之三明院念海江戸御公

儀より御追放故江州坂本之寺共天鷲寺も日光御門跡より餘仁□下

吉原村松見寺を拙僧末寺同前に支配致候様にと上仰仕ニ其意ニ仰

出之書附有

一、本堂 四間四面

亮英僧 (一七三二年) 享保七寅年再興 此入用

六ノ内同人寄附

本尊 釈迦

文珠 蘭浦 施主 妙念

普賢 田村源右エ門

三十三所觀音之像

大阪伏見堀讃岐屋市兵衛寄附享保四亥七月

京都に而出来

外ニ銀壺ノ 仏供料 附之

同五百匁 燈明料

西川甚兵衛方へ當人より預ケ置年々歩銀として

(一八三二年) 天保三辰再興 六間四面

一、護摩堂 貳間四方

古来より有之 (一七一五年) 正徳五年再建 但入用銀六貫匁

不動

藥師

元三大師

◎按ズルニ京都二埋
レ云々ハ京都ノ古
物商カ或ハ同地ノ
廢寺ニアリシヲ云
フナラン
開眼供養ト云ハ彩
色ヲヤリタル爲ニ
行スルモノナラン
現ニ佛像ノ彩色
ハ新シク美麗ナリ
(芝口)

一、釣鐘堂

且頭ハ檀家
中頭立タルモ
ノナルベシ
(芝口)

庚申之儀ハ享保十三申年(一八二八年)願濟之上安置翌寅九月十八日開眼供養也

青面金剛童子 御丈三尺 運慶之作

永々京都二埋有之此度不思議ニ相知當寺に安置と云々

宮殿其他入用銀五百匁 末寺中奉加也

普請中飯料添之由淨仙寄進

壹間四方

願濟之上同十九寅六月十九より八月過二

享保五年鐘出来 (七二〇年) 建く入用七百匁

且頭中集不足分六十匁ハ住持寄附

釣鐘ハ子八月下旬成就 鑄物師若野村金屋太左エ門

入用高四 宝銀ニ而七貫匁内 壺貫匁 亮覺寄進
六匁ハ所々より奉賀

東西四十二間 南北二十七間

御高 壺斗四升

境内

一、田畑合

貳反九畝拾五分

貳石四斗八升八合

田方

也

貳石九斗五升五合

四斗六升七合

畑方

田之方押委(？悉)作五斗程

畑方大豆貳斗ほど

一、檀家

百三拾軒

(一八四一年)
天保十二書上百十九軒

○不動尊厨子下側裏書

(私ニ云

実は元三大師宮殿更に古くは大黒天の厨子ならんか)

私ニ云は
兼平行海氏の註な
るべし(芝)

奉安置

當山開基高祖伝教大師御作

一心三觀摩訶迦羅大黒天神

南叡山大同天台教最乘法華院

佛法守護之所

御導師當山中興權大僧正法印大和尚位憲海

呪願師大(二第)二祖大僧都法印大和尚位憲空

藥王院第三祖權大僧都法印大和尚憲亮

天和元曆 辛酉十二月吉祥日

(曆八年ノ意)

○愛染明王画像裏書

○古前机

(一六九〇年)
元禄三年庚午年

元禄三年

五月廿六日

尾上源右エ門寄附

松見寺本尊宝御前

○御手洗石

(一六九二年)
元禄五壬申年

九月壹日

○不動三尊台書付

.....

○全

奉寄附

奉再興松見寺不動尊

不動尊並脇子(土)

座光二童子

紀昴粉河寺御池坊

爲澤峯常貞信士七回忌追福也

童男御宝前

(一七一〇年)
享保五庚子年六月

(一六七三年)
延宝元年九月吉祥日

大阪 劔先町

山門一音院実仙欽白

讃岐屋市兵衛

○現在薬師如来台座裏書

紀昀日高郡小池邑

大福山妙樂寺法華三昧院

大日如来台座

傳教大師御作

○右に記載の裏書は昭和三十一年頃當寺松見寺住職兼平眞海氏の息
行海氏が取調べて記しおきしものと思う。私に曰く 現在云々と
云へるは此意味に於て了解せらるべし。記載の紙質も新しく文字
も昔流にあらず。

(芝口)

御目録 壺通

抑も此本尊像千手觀音菩薩は人皇六十二代村上天皇応和
癸亥年我が宗祖源空元三大師白檀の木を以て同木同作
日本五体の靈像といふ常に大師の御念々佛なる所御入滅
後

宗祖源空元三大師は
誤りなるべし

弟子方之を分配して内壺躰は東叡山に安置し壺躰は日光
山に安置有之残る三躰は比叡山に有之由當時の初代大和
尚叡山より転住の節滋賀院御門跡の宮様より拝領
して安置す此尊像を拝する輩は現古七難を免れ願ふ処
叶はずと云ふ事なし

（一七三〇年）
享保十五年庚戌九月十五日

當時（寺）九代

法印正山亮覺和尚記之

この記録ハ兼平氏が亮覺和尚の記載を後写したるもの

明治十二年六月

縣通達による書上一件

○

別紙日乙第六十三号を以て最達相成候ニ付寫四通致候御取調の上本月
七日迄戸長役場ニ有無御差出致され度候也

戸長役場

七月一日

松見寺

閑壽寺

常福寺

右住職御中

日乙第六十三号

社寺宝物古文書等ノ儀ハ各官庁ニ於テ取締相定厚ク保護可致筈ニ付テハ県社以
下ノ諸神社并ニ寺院共所藏ノ宝物古文書等取調可差出旨今般内務省ヨリ被達候
抑社寺宝物古文書等幾多ノ星霜ヲ経ルニ從ヒ自然散逸[?]テハ都テ將來ノ昭鑑ヲ
失ヒ且神社寺門ノ衰頽ヲ來スニ至不相濟次第ニ有之前件全ク保護上ヨリ出候
事ニ付神官僧侶ニ於テモ右ノ趣旨ヲ体認シ聊無疑念相心得候様長官ヨリ

訳テ被送達候条本県乙第十号^(百十号ノ誤)布達取調書式ニ照準詳細品目書ヲ調製

七月九日限當役所ニ可差出旨部内社寺ヘ相達候事

明治十二年六月二十日
^(一八九九年)
日高郡長 古田 庸

乙第百十一号

大社古社^{県社}以下並名山巨刹等ニ設置有之文庫経藏及儲書取調之義内務省

達之趣有之候付各神社寺院ニ設置有之候分無浅取調別紙書式ニ照準
詳細ナル目錄ヲ製シ来ル七月十五日限郡区役所ヲ經由シ縣庁ヘ可差
出此旨縣社以下神社並寺院エ布達候子事

但本文庫藏設置ナキモノハ其段同日迄可届出事

明治十二年六月四日 和歌山縣令 神山 郡廉

別紙(書式省畧)

今般別紙ノ通り御達シニ付及御回達候也

十二年八月十八日

田井村役場

吉原浦王子社

全浦松見寺

祠掌御中

住職御中

乙第百六十四号

県社以下神社寺院堂庵及神社境外遙拝所同祖靈社明細帳調製之義
其筋より達有之候条別紙明細書式ニ照準本年六月三十日ノ現況ヲ
以精密取調同八月三十一日限郡区役所ヲ經由シ可差出此旨県社以
下神社並寺院並寺院其他関係ノ者へ布達候事

但神社境外遙拝所同祖靈社無之候ハバ其段同日迄届出ベシ

明治十二年七月十日

和歌山県令 神山 郡 廉

別紙(書式畧)

県令より乙第百六十四号通達ニ関スル届出(草稿)

和歌山縣下紀伊國日高郡吉原浦

天台宗 海龍山 松見寺

天台宗滋賀県下近江國比叡山延暦寺末

一、本尊三尊仏 釈迦 文珠 普賢也

一、由緒 當山草創不詳 往古眞宗而日高郡三十六道場之一ト云

從^(一五九二〜九六年)文祿年間住僧乗円者當住職寛永^(一六三五年)十二年乙亥乗円更

爲天台宗而寂故以乗円爲當寺第一古先後盛衰未詳外二

縁由等無之

一、本堂 桁行六間 梁行六間 一字

一、境内 敷地 七百壹坪 有税
廟地等 地價百廿五円四十七錢五厘

一、境内 庚申堂 二間半四方 一字

本尊 青面金剛童子

一、由緒 無之

一、境内 金比羅堂 二間四方 一字

本尊金比羅童子

同拝所ツナキ 一間半二三間

一、同吒枳尼天堂 一間四方 一字

一、厨庫 桁行七間 梁行四間 一字

一、梵鐘堂 七尺四方 一字

一、藥医門 横八尺 奥行四尺 一字

一、物置 桁行五間 梁行一間半 一字

一、境内奄室等無之

一、境外耕地 ~~主畝廿三歩~~ 地價八円八十五錢二厘九毛

(原本朱線ニテ末梢セリ)

一、檀徒 人員 四百九十一人

一、該寺ヨリ県庁迄距離 十三里六丁四十三間

右今四乙第百六十四号御布達ノ趣詳細取調上申スベキ旨

敬承仕前頭ノ通境内並建物等詳細ニ相調此旨上申仕候也

別ノ処ニ

天保十二年書トシテ

金比羅堂 秋葉山王 三間半四方

文化十三年建立トアリ

又全書上ニ

庫裡 四方間九間

茶所 一間半五間トアリ

(芝口)

明治十二年八月二十一日

吉原浦松見寺住職

瀧川忍學代理

大道寺靈谷

同寺担家総代

田端喜三兵衛

田中新兵衛

松見寺宝物古器物古文書目録

一、 釈迦文珠普賢三仏像

一幅

桐 函入

至テ古画ニシテ紙中殷損アリ筆者不詳

紙地極彩色 紙中長二尺五寸三分 幅一尺二寸八分

明治四年^(二八七一年)

辛未秋修装

全長五尺一寸三分

全幅一尺八寸四分

裏文曰

百済川成筆

當寺往古ハ一向宗ニアリシニ改宗セシ節初テ安置スル本尊釈迦仏

是也右本尊八十年間平家ニ在リタリ以来當寺ノ住物^(在)ト致置者ナリ

宝曆十三年^(一七六三年)

十二月辛未七月十五日

住持 亮英 改之

二、 慈惠大師像

一幅

無落冠^(歟)桐函入

紙地彩色 紙中長壹尺六寸一分 幅八寸

明治四年辛未秋修装 全長三尺一寸五分 全幅一尺一寸

傳記文曰慈惠ノ弟子慈忍和尚古ニ阿闍梨公ト称セラル君ノ筆ニテ

當寺第一ノ所藏也傳來所由未詳

三、 涅槃像

一幅

筆者未詳

明曆二年（一六五六年）丙申五月十五日造立紙地極彩色紙中五尺五寸四分

幅四尺一分

嘉永三年（一八五〇年）修裝 全長七尺五寸七分 全幅四尺五寸二分 伝来所由未詳

四 一、法華曼陀羅像

一幅 京都東洞院

絵師 喜右衛門筆

延享四年（一八四七年）十月造立 紙地極彩色 紙巾（中）七尺九寸八分 幅四尺五寸一分

天保十五年（一八四四年）辰年修裝 全長九尺五寸四分 全幅五尺一寸六分 伝来所由未詳

五 一、三尊来迎佛像 一幅 筆者不詳 桐函入

紙地金泥極彩色 紙中長四尺二寸九分 幅一尺八寸七分 （一八七一年）明治四年 辛未

秋修裝全長六尺六寸三分 全幅二尺三寸三分 寄附人僧正亮海年号不詳

六 一、天台妙樂伝教三大師像 三幅対 探幽齋筆 桐函入

絹地淡彩 絹中長三尺七寸 幅壹尺三寸五分

裝飾全長六尺四寸三分 全幅一尺九寸一分

寄附人大阪府伏見町讚岐屋市兵衛 年号未詳

七 一、天台伝教両大師像 二幅対 筆者未詳 桐函入

絹地彩色 絹長三尺〇三分 幅一尺三寸七分半 裝飾全長

五尺二寸三分 全幅一尺七寸九分

宝曆十二年^(一七六二年)壬午六月四日當寺古住亮英寄附

八 一、惠心僧都像 一幅 筆者未詳

同法語 台嶽苾芻亮照筆

絹地彩色絹中長二尺八寸三分 全幅一尺三寸三分

裝飾全長五尺一寸一分 全幅一尺七寸八分

文政十一子^(一八二九年)年寄附人檀越田端弥三兵衛 田端兵藏

九 一、十六羅漢圖 一幅 一休筆

一〇 一、愛染明王圖 一幅 筆者未詳

一一 一、壽山ノ二大字 一幅 僧正昌宗筆

(九十(十一)ノ三幅ハ粗書画ナレドモ從前住物及寄附物調帳簿ニ記載上

申ヲ経タル故ニ此ニ掲

一、棟札

一枚

其文二曰

(表)

手置帆置命

大工棟梁海士郡加茂住

野坂七左衛門藤原重道

奉上棟

天御中立尊

寺門長久吉詳敬白

同棟梁日高郡下財部村住

彦狹知命

堀佐エ門藤原安之

(裏)

罔象女神

權大僧都

法印 本壽

三

五帝龍神

天保三^(一八三二年)壬辰年四月五日幹支吉祥

古話人 田井村

田端喜三兵衛
油屋 兵藏

一、右ノ外仏教書數十部古来所有スト雖モ紛乱闕冊ニシテ全部ヲ存セス或ハ

蠹魚ノ巢窟トナリ字面ヲ失フモアリ之ヲ開中スヲ得ガタク其他古帖文具樂

器玉石刀劒類ハ絶テ之ナシ

右之通御座候也

明治十二年七月

教導職名

可認事

和歌山県管下

紀伊国日高郡吉原浦

天台宗松見寺住職

瀧川 忍學

下ゲ紙
他行ニ付無印

右檀家総代 田端 喜三兵衛

田端 壽之助

右戸長 田宮 齋次郎



一、庫裏

寛保三^(一七四三年)亥五月より八月迄出来入用銀八百五十匁

八百五十匁旦那中 三百匁余 諸色造方住持方より

一、位牌檀

延享元^(一七四四年)子六月より同九月迄出来 其外座敷天井なげし等入用銀

四百五匁造方住持方

一、法被 寛保三^(一七四三年)亥十一月廿四日 施主 智還

一、水引 同年号 同 両全

一、飯鐘^(喚) 延享二年の記帳有之 和田村市左エ門

一、そろばん ニツ 藺村にし川 妙 壽

吉原 太左エ門

一、水引 吉原

一、天台大師 三具足 おの上 甚六

にし (吉原の西垣の事)

一、伝教 同 八郎兵衛

一、金らん打しき

同行中

（二八四一年）
天保十二書上

一、金比羅堂

秋葉山王

三間半四方
（二八一六年）
文化十三子建立

一、庫裏

四方間
九間

一、茶所

壺間半
五間

和歌山縣第六区二小区

紀伊國日高郡吉原浦

天台宗 松見寺

什物之部

一、本堂

桁 六間
梨 六間

一、涅槃像 壺幅 筆者不詳

（一六五六年）
明曆丙申年
五月十五日

一、本尊釈迦本像 壺躰

（木）
年曆不詳

一、慈惠大師画像 壺幅

阿闍梨君筆也

一、釈迦仏像 壺幅

筆者不詳

右當寺往古ハ一向宗ニテ候天台に改宗之節初テ安置仕候本尊釈迦
仏是也右本尊八十年も在家ニ有之候処爲 知當寺什物ニ致置者也

（一七六一年）
宝曆十一年 辛巳年七月十五日 住寺 亮英 改之

一、青面金剛童子画像〇〇

壺鉢

享保十三（一七二八年）申九月
運慶之作也

一、天台大師画像

壺鉢

一、傳教大師画像

壺鉢

壺幅ナルベシ

一、藥師如来画像

壺鉢

一、辨財天木像

壺軀

弘法大師作

一、不動明王木像

壺鉢

厨子入

一、法華曼陀羅像

壺幅

延享四年十月（一七四七年）京都東洞院絵師喜左エ門
三条通小橋町表具師酒井喜右衛門作也

一、拾六羅漢画

壺幅

一休筆

一、愛染明王画

壺幅

筆者未詳

一、壽山 二大字

壺幅

昌宗筆

一、歡喜天画

（像ノ誤リナラン）

壺鉢

年曆不詳

一、不動明王童子附

壺鉢

年曆不詳

一、梵鐘

享保五年（一七二〇年）庚子八月廿三日立英法印代新調

〇
木像あるべし

一、唐銅立燈籠

壺対

元輪燈之處昌空法印代仕替

一、密檀唐銅佛具

壺通トホリ

一、磬

台共壺

一、本尊前

三具足唐銅壺通

一、眞鍮花瓶

壺対

一、護摩堂仏具

壺対

一、鉄釣燈籠

壺対

一、鐺鉞

壺通

一、駕

壺挺

一、敷地 貳反壺畝六歩

一、眞鍮釣燈籠

壺対

一、庚申堂

奥行貳間半 間口貳間半

一、門

奥行四尺 間口八尺

一、鐘楼堂

七尺四方

一、庫裏

奥行八間 間口六間

一、玄関

奥行貳間半 間口貳間

一、物置

奥行壹間半 間口四間半

一、雪隠

総計

右什物ニテハ明治^(一八七三年)六年三月大政官第八十九号御発令今般内務省ヨリ

御違も有之候付悉詳調進可仕旨御本庁乙第四百八十二号ヲ以テ御

達ノ趣敬承仕員数及物資品柄等取調候処相違無之候今^後般

水火風震等之節檀中ヨリ厚ク保存注意可仕候因テ目錄上申

仕候也

住職

瀧川 忍孝 印



第六大区四小区鐘卷村

金陵 忍鎧



明治^(一八七六年)九年十二月

道成寺住職

谷輪 平右衛門

高垣 小平

戸 長	副 戸 長			
岡 本	和 田	田 端	安 宅	田 端
三 四 郎	喜 八 郎	壽 之 助	惣 七	梅 助

和歌山縣第六大区二小区

紀伊國日高郡吉原浦

天台宗 松見寺

寄附物之部

一、喚鐘

第六大区二小区和田浦 市右衛門

享保元(一七六六年)丙申年十月八日

一、三拾三所觀世音三拾三軀

大阪府伏見城讃岐屋市兵衛
享保四年(一七一九年)亥七月中旬京都ニテ出来

一、本尊釈迦三尊之内 文珠 普賢

蘭浦妙念并田井村源右衛門
享保七(一七三二年)壬寅年出来

一、天台大師尊前 三具足

尾の上甚六 寛保三年(一七四三年)亥十二月

一、傳教大師尊前 三具足

當村八郎兵衛
寛保三年(一七四三年)亥十二月

一、天台大師伝教大師 貳幅対桐箱入

宝曆十貳年(一七六二年) 當寺 古住
天明元(一七八一年)辛丑十月

一、千手觀古音脇立地藏毘沙門

年代未詳

和歌浦宝藏院代（二代）
覺眠

一、三拾三所宝前唐銅燈籠 壺対

田井村 田端伝右衛門

文化十四^{（一八二七年）}丑年三月

一、鑿

田井村 中西庄右ヱ門

文化十三^{（一八二六年）}丙午二月

一、惠心僧都

田井村 田端弥兵衛 同兵藏

文政十二^{（一八一九年）}子年

一、天台妙樂伝教三大師 箱入三幅

年曆未詳

探幽齋筆大阪府伏見城讃岐屋市兵衛

一、眞鍮釣燈籠

壺対

田井村 田端幾右衛門

天明元^{（一七八一年）}辛丑十月

一、阿弥陀三尊

筆者不詳

年曆不詳

僧正 亮海

一、眞鍮花籠

五ツ

芦津実全

明治甲戌^{（一八七四年）}

一、妙歡察智阿弥陀

壹躰

芦津実全

明治甲戌
(一八七四年)

摠計

右寄附ニテハ明治六年三月太政官第八十九号御発令今般内務省ヨ

(一八七三年)

リ御達も有之候付悉詳調進仕可旨御本庁乙第四百八十二号ヲ以御
達ノ趣敬承仕員数及物資品柄等取調候処相違無之候今後水火風震
等之節檀中ニより厚く保護安存注意可仕因て目録上申仕候也

住職

瀧川 忍孝



第六大区四小区鐘卷村

道成寺住職

法類 金陵 忍 鎧

田端 壽之助

田端 梅 助

高垣 小 平

安宅 惣 七

戸	副	
長	戸	
	長	
岡	和	谷
本	田	輪
三	喜	平
四	八	右
郎	郎	衛
		門

本書は美浜町田井田端春藏家の旧藏にかゝるもので松見寺兼平行海氏が借用して整理中のものを、更に転借して寫本せり。

本書、兼平氏借用中七・一八水害あり、もし田端にありたらんには流失を免れざりしものなるべし。本書の記事『日高郡誌』に見えざるもの多く、新資料と云ふべし。

昭和三十一年八月十一日

清水 長一郎

「松見寺文書」デジタル化を終わって

今回デジタル化を終わった「松見寺文書」は、松見寺の前身吉原坊舎に關すること
はなく、天台宗に改宗後の記録である。

注目は初代住職乗円の時、一向宗から天台宗に改宗したと云う「享保十乙巳十月寺
社方より御調ニ付書上帳寫」である。これにより『日高郡誌』の松見寺天台改宗説は
否定的。『美浜町史下』一九九一年には新たに引用されている。

平成二十三(二〇一一)年二月二十八日(月)

清水 章博